

3月20日



元気が一番 つながる仲間 寿楽会 便り

3月号

発行責任者
船坂民平
(Tel. 241-8430)

もう3月も半ば。桜の便りが届くようになった。岐阜とは身近な能登地震の話題であったという間の2か月であった。能登の復旧・復興も急ピッチで進んでいるようでも、まだまだ避難者が1万人を超え、断水は1万9千戸。まだ緒に就いたばかりの状態である。

能登ばかりでない。ウクライナへのロシアの侵攻、もう2年が経過して、解決の明かりが見えない。国連も機能せず、1番の鍵を握っているアメリカの姿勢も覚束ない。ナトの援助疲れ、その温度差も目立ってきた。しかもロシアの経済力、中国やインドとの通商のお陰で、戦前以上に潤っているという。これで、独裁者プーチンの次期大統領選も当確。もしも、最も懸念されるロシアが戦勝国になったら、世界はどうなるのだろうか。

国内の暗雲も簡単には消えない。日本を背負っている首脳たち、政倫審に出席した5人の弁明は、すべて「会計には全く関与せず、用途はすべて政治活動」で終始した。この裏金問題、その悪辣な行為がこれで幕引きとなったら、法治国家の大きな汚点となっていくまでも消えることはないだろう。だれも責任を負わない政治家に国の行方を安心して託すことができないのは、国民として寂しいことである。

国の内外とも不透明で、混沌とした厳しい実状が当分続く。

「好きなことを 好きなだけやって 大いに楽しみたい」

昭和10年生まれにとって、人生100年時代の到来は夢のような話。ところが、現実のものになって来た。後期高齢化もいいところ、終末期高齢化を迎える者にとって、余生は明るく楽しみに徹したい。幸い自由時間は十分ある。選択時間は十分ある。昼間からテレビの前ででんと座り、映画鑑賞、スポーツの生放送が見られる。夜遅くまで長編小説に挑むこともできるなど、現職時代できなかったことを満喫したい。

趣味に生きようと考えると、その条件として、健康長寿でなければならない。脳の活性化も図らなければならない。もう1つ、年金プラスアルファの副収入も欲しい。ただこれは、欲張りすぎかもしれない。郡上市のあるお寺の掲示板にこんな詩が載っていた。

「仏さまのことば 一お前はお前で丁度よい 顔も体も名前も姓も それはお前に丁度よい 貧も富も 親も子も 息子も嫁もその孫も 幸も不幸も 喜びも悲しみさえも 丁度よい 歩いたお前の人生は よくもなければわるくもない お前にとって丁度よい 地獄へ行こうと極楽へ行こうと 行ったところが丁度よい うぬぼれる要もなく 卑下する要もない 上もなければ下もない 死ぬ日さえも丁度いい お前はお前で丁度よい」

令和6年度 北山寿楽会 役員候補案 紹介 (敬称略)

2月の役員会で、次年度からの北山寿楽会役員候補として、以下の方を推挙した。総会での承認を得て、正式に決定する。ご支援のほど 宜しく願いしたい。

会長 中島 利喜夫 副会長 中山 ナオミ 会計 西村 栄子
友愛 渡邊 英子 友愛 西村 栄子 監査 桑 忠司

書記は会長兼務

班長

1班 矢野 朋子 2班 橋本 多恵子 3班 西川 信子 4班 中山 ナオミ
5班 中島 利喜夫 6班 木下 保卓 7班 船坂 民平 8班 堀 けい子
9班 渡邊 英子 10班 秋松 旭 コモンヒルズ 中島会長

「4年間 お世話になりました」 退任のことば

何処も彼処も後継組織ができなくて解散に追い込まれることの多いなかで、北山寿楽会は上記のように組閣ができました。4年間大変お世話になりました。役員、会員の温かいご支援、ご鞭撻のお陰でなんとか無事退任できました。役得で良い勉強が、素晴らしい体験ができました。衷心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。